

トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

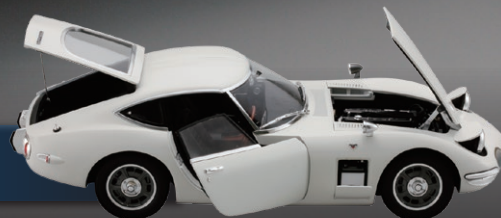
1:10 SCALE

全長 417mm



9

今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！



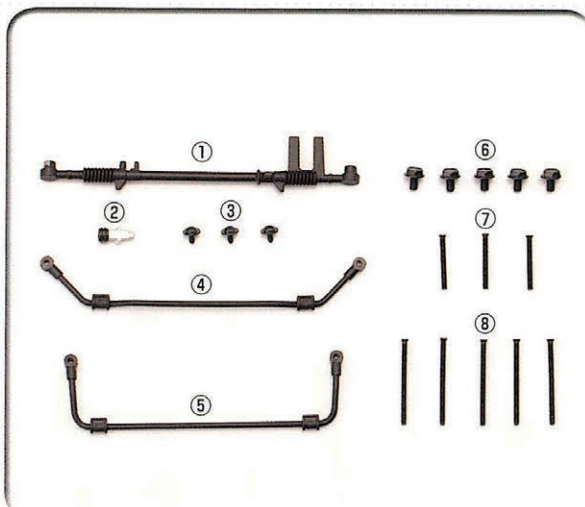
DeAgostini
COLLECTIBLES

42号

リヤサスペンションを完成させる

今号では、41号までに組み立てたリヤサスペンションに、37号と39号で組み立てたリヤアクスル、および今号で提供する「リヤスタビライザー」を取り付け、リヤサスペンションを完成させる。組み立ての手順が多く、特にビスを間違えやすいので慎重に作業を進めよう。

今号のパーツ



- ①ステアリングタイロッド×1
- ②サーモコントロールスイッチ×1
- ③ビス(AAタイプ)×3(※1本は予備)
- ④フロントスタビライザー×1
- ⑤リヤスタビライザー×1
- ⑥ビス(Tタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑦ビス(Yタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑧ビス(Zタイプ)×5(※1本は予備)

※③④⑥⑧は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

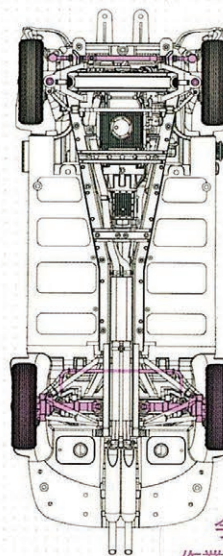
- ・プラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)

あると便利な道具

- ・多用途接着剤
(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)

用意するもの

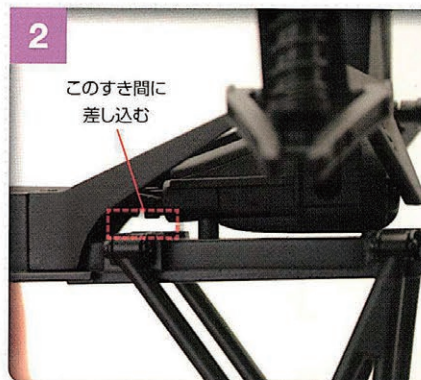
- ・シャシーフレーム(41号で組み立てたもの)
- ・左リアアクスル(37号で組み立てたもの)
- ・フロントダンパー×2(38号で提供したもの)
- ・右リアアクスル(39号で組み立てたもの)
- ・ビス(Lタイプ)×2(40号で提供したもの)
- ・ビス(Xタイプ)×2(40号で提供したもの)
- ・ビス(Hタイプ)×2(41号で提供したうちの2本)



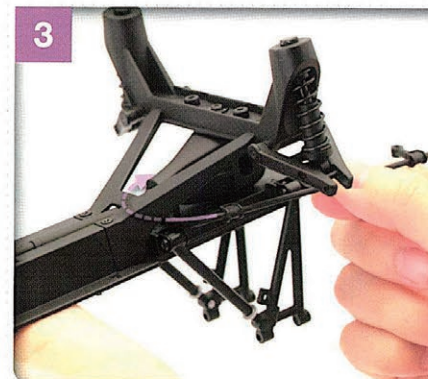
今号で作業する箇所



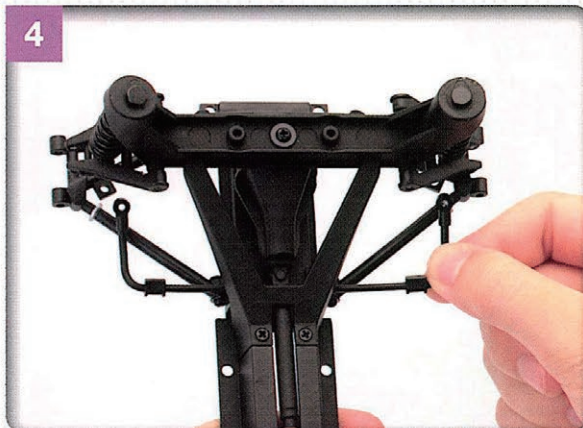
⑤リヤスタビライザーを用意し、写真のように置いて形状を確認しよう。これはパーツを左側面から見た状態で、モデルには上向きにしている側を上にして取り付けることになる。



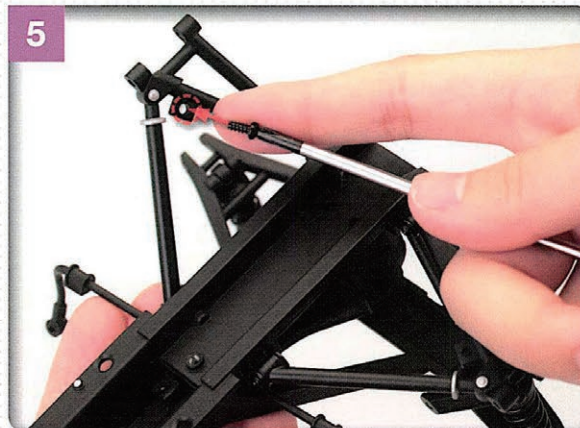
41号で組み立てたシャシーフレームを用意する。リヤ側の左側面を見て、写真で示した位置に“すき間”があることを確認しよう。



リヤスタビライザーの先端を②の“すき間”に差し込み、ゆっくりとシャシーフレームの右側面に貫通させる。①で説明したように、リヤスタビライザーが上向きになるように取り付けること。リヤスタビライザーは柔軟な樹脂素材で成形されているので、曲がっても折れることはない。



4
リヤスタビライザーを貫通させると写真のような状態になる。途中、パーツの太い部分が引っ掛かるかもしれないが、慎重に角度を調整しながら差し込めば、問題なく取り付けられるはずだ。



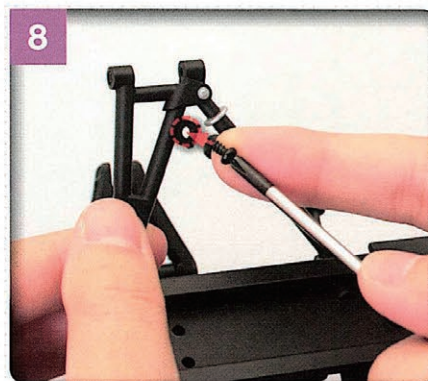
5
41号で提供したHタイプのビスを用意し、1番のプラスドライバー先端にセット。次にシャシーフレームを裏返し、写真で示した左ロワアームのビス穴にHタイプのビスを差し込む。



6
Hタイプのビスを貫通させたら、その先端をリヤスタビライザーのビス穴を寄せてセットする。



7
ドライバーを右に回し、Hタイプのビスをリヤスタビライザー先端にねじ込む。リヤスタビライザーがガタガタしない程度にねじ込めばOKだ。



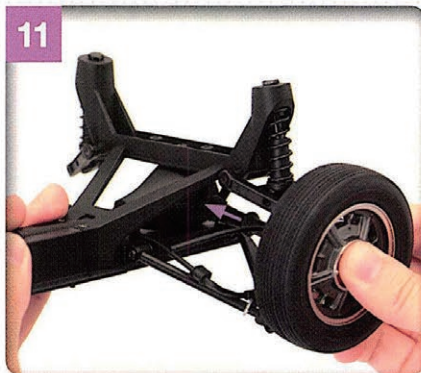
8
Hタイプのビスをもう1本用意し、今度は右ロワアーム裏側のビス穴に8と同じ要領で差し込む。



9
6、7と同じ要領でHタイプのビス先端をリヤスタビライザーのビス穴にセットし、1番のプラスドライバーを使ってねじ込む。



10
次に、39号で組み立てたリアアクスルを用意する。写真で示したシャシーフレーム左側面のアッパーアームとロワアームの間に“ブレーキホースをフロントの方に向けた状態”でセットする。



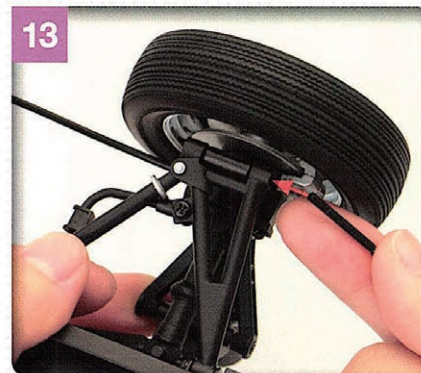
11

ドライブシャフトの先端をデフケースの長穴に差し込む。



12

シャーシフレームを裏返し、左ロワアームの先端にリアアクスル下側をはめ込む。このとき、ロワアーム側のビス穴とアクスル側のビス穴を合わせておく。



13

⑦ビス(Yタイプ)を用意し、写真で示したビス穴に差し込む。



14

Yタイプのビスを差し込んだところ。ビスはアクスル側のビス穴を貫通し、左ロワアーム前側のビス穴に突き当たっている状態だ。



15

1番のプラスドライバーを使い、Yタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分が左ロワアームのビス穴と“ツライチ”になればOKだ。



16

次に、シャーシフレームを表に戻し、左アッパーアームを押し上げてリアアクスル上部をはめ込む。



17

左アッパーアーム先端のビス穴と、リアアクスル上部のビス穴を合わせる。アッパーアームを少し押し上げた状態で行う。



18

40号で提供したXタイプのビスを用意し、17で合わせたビス穴にリア側から差し込む。ビスはリアアクスル上部のビス穴を貫通し、アッパーアーム前側のビス穴に突き当たった状態にしておく。

19



1番のプラスドライバーを使い、Xタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がアッパーアームのビス穴と“ツライチ”になればOKだ。

20



写真のように左ロワアームとダンパー上部を挟むようにして持ち、ロワアームを押し上げてサスペンションの動作を確認する。上下のサアームがスムーズに動き、ダンパーが伸縮していればOKだ。

21



次に37号で組み立てたリアアクスルを用意し(10の囲み参考)、写真で示したシャシーフレーム右側面のアッパーアームとロワアームの間に“ブレーキホースをフロントの方に向けた状態”でセットする。

22



ドライブシャフトの先端をデフケースの長穴に差し込む。

23



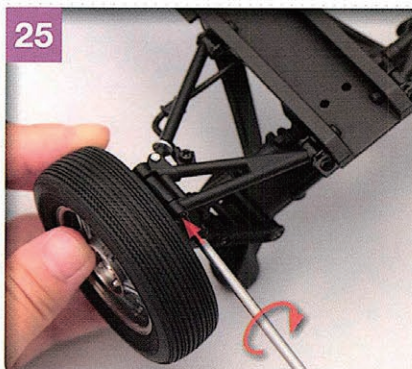
シャシーフレームを裏返し、右ロワアームの先端にリアアクスル下側をはめ込む。このとき、ロワアーム側のビス穴とアクスル側のビス穴を合わせておく。

24



Yタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にリア側から差し込む。ビスはリアアクスル側のビス穴を貫通し、右ロワアーム前側のビス穴に突き当たっている状態にする。

25

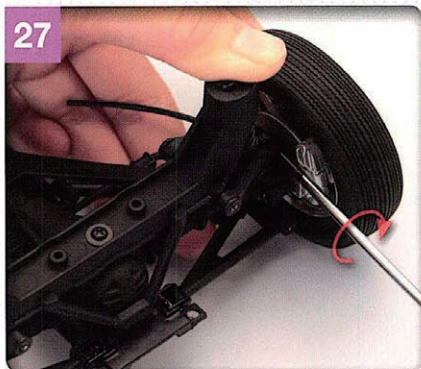


作業しやすいようシャシーフレームの向きを戻し、1番のプラスドライバーを使ってYタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分が右ロワアームのビス穴と“ツライチ”になればOKだ。

26



右アッパーアームを押し上げ、リアアクスル上部をはめ込んだら、アッパーアーム先端のビス穴と、アクスル上部のビス穴を合わせる。アッパーアームを少し押し上げた状態で行う。



27
Xタイプのビスを用意して、23で合わせたビス穴にリヤ側から差し込み、1番のプラスドライバーを使ってゆっくりとねじ込む。ビスの頭部分が右アッパーアームのビス穴と“ツライチ”になればOKだ。



28
写真のように右ロワアームとダンパー上部を挟むようにして持ち、ロワアームを押し上げてサスペンションの動作を確認する。上下のサスアームがスムーズに動き、ダンパーが伸縮していればOKだ。



29
シャシーフレームを平らな台の上に置き、シャシーフレームのリヤ側上部の、中央部分を数回押し込んでみよう。サスペンションが沈み込み、左右のダンパーが伸縮していればOKだ。



30
①ステアリングタイロッドと②サーモコントロールスイッチを用意し、写真で示したステアリングタイロッドの取り付けピンに、サーモコントロールスイッチをセットする。向きを間違えないよう、写真を参照しながら行おう。



31
サーモコントロールスイッチを真っすぐに押し込み、ステアリングタイロッドに固定する。もしも簡単に抜け落ちてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤をごく少量塗布してから取り付けよう。



32
次に、38号で提供したフロントダンパーを用意する。シャシーフレームのフロント左側面に設けられた取り付け部にセットする。



33
フロントダンパーの取り付け部には六角形のくぼみがあり、そこにフロントダンパー上部をはめ込む。



34
40号で提供したUタイプのビスを用意し、33ではめ込んだフロントダンパーが抜け落ちないように保持したまま、上部のビス穴にセットする。



35
12号で提供したクロスレンチを使い、Uタイプのビスをねじ込んで、フロントダンパーを固定する。



36
32と同じ要領で、シャシーフレームのフロント右側面に設けられた取り付け部にフロントダンパーをセットする。



37
フロントダンパーの取り付け部には六角形のくぼみがあり、そこにフロントダンパー上部をはめ込む。



38
Uタイプのビスを用意し、37ではめ込んだフロントダンパーが抜け落ちないように保持したまま、上部のビス穴にセットする。



39
クロスレンチを使い、Uタイプのビスをねじ込んでフロントダンパーを固定する。

今号の完成



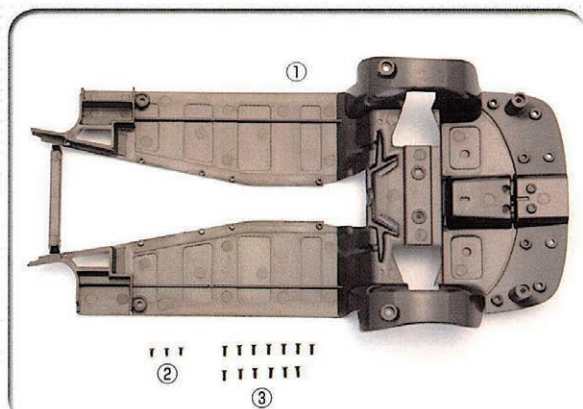
これで今回の作業は完了し、リヤ側のサスペンションが組み上がった。なお、今号で提供した前後のスタビライザーは、組み立てを容易にするためと、完成後の破損を防ぐ目的で軟質な樹脂製としていることをお断りしておく。また、組み立てたステアリングタイロッドは後の作業で取り付けるので、大切に保管しておこう。

43号

フロントサスペンションを 組み上げる

今号では、38号で提供した「フロントアッパーアーム&ロワアーム」をシャシーフレームに取り付け、フロントサスペンションを組み上げる。42号で行ったリヤサスペンションの組み立てと同様、工程が多いので慎重に作業を進めよう。なお、今号で提供する「シャシーパネル」とビス類は、後の作業で取り付けを行うので保管しておこう。

今号のパーツ



- ① シャシーパネル×1
- ② ビス(Nタイプ)×3(※1本は予備)
- ③ ビス(CCタイプ)×13(※1本は予備)

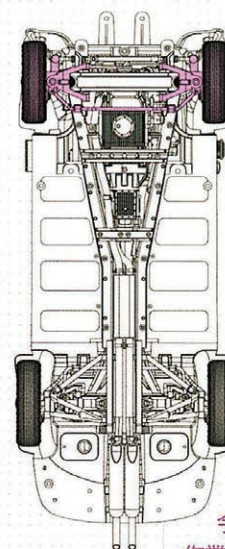
※①②③は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

- ・ブラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)

用意するもの

- ・シャシーフレーム(42号で組み立てたもの)
- ・左フロントナックル(19号で組み立てたもの)
- ・右フロントナックル(21号で組み立てたもの)
- ・フロントアッパーアーム左×1(38号で提供したもの)
- ・フロントアッパーアーム右×1(38号で提供したもの)
- ・フロントロワアーム左×1(38号で提供したもの)
- ・フロントロワアーム右×1(38号で提供したもの)
- ・フロントスタビライザー(42号で提供したもの)
- ・ビス(Wタイプ)×2(40号で提供し、残ったうちの2本)
- ・ビス(Hタイプ)×2(41号で提供し、残ったうちの2本)
- ・ビス(Tタイプ)×4(42号で提供したもの)
- ・ビス(Zタイプ)×4(42号で提供したもの)



今号で
作業する箇所



38号で提供したフロントアッパーアーム左と、42号で組み立てたシャシーフレームを用意する。シャシーフレームのフロント左側の、写真で示した位置にフロントアッパーアーム左をセットする。



フロントアッパーアーム左のビス穴と、シャシーフレームのビス穴の位置を合わせておく。



42号で提供したZタイプのビスを用意し、写真のビス穴に差し込む。ビスはアッパーアーム前側とシャシーフレームのビス穴を貫通し、アッパーアーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



4
1番のプラスドライバーを使い、Zタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がアッパーアームの側面と“ツライチ”の状態になればOKだ。



5
38号で提供したフロントロワアーム左を用意し、写真で示した位置にセットする。



6
フロントロワアーム左のビス穴と、シャシーフレームのビス穴の位置を合わせておく。また、ダンパー下の取り付け部とロワアームのスリット部分の形状を合わせ、はめ込んでおく。



7
Zタイプのビスを用意し、写真のビス穴に差し込む。ビスはロワアーム前側とシャシーフレームのビス穴を貫通し、ロワアーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



8
1番のプラスドライバーを使い、Zタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がロワアームの側面と“ツライチ”の状態になればOKだ。写真のようにシャシーフレームを立てた状態にすると作業しやすい。



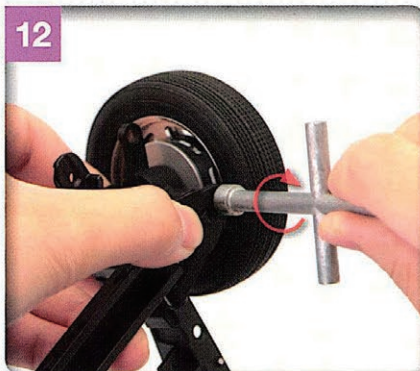
9
19号で組み立てた左フロントナックルを用意し、取り付けておいた「ハブナット」を取り外す。今号の作業ではもう使用しないので、紛失しないようしっかり保管しておこう。次に、写真のようにフロントロワアーム左の先端に下側のポスト部を差し込む。このとき、ロワアームが垂れ下らないよう指で押さえておこう。



10
差し込んだ下側のポストが抜けないよう注意しながら、上のポストをフロントアッパーアーム左の先端の穴に差し込む。



11
左フロントナックルが、上下サスアームから外れないよう挟み込んだままシャシーフレームを裏返し、写真で示したビス穴に42号で提供したTタイプのビスをセットする。



12号で提供したクロスレンチを使い、Tタイプのビスをねじ込む。



写真のように、ロワアーム側面のビス穴と、ダンパー下部のビス穴を合わせ、40号で提供したWタイプのビスを差し込む。ビスはロワアーム前側とダンパー下部のビス穴を貫通し、ロワアーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



1番のプラスドライバーを使い、Wタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がロワアームの側面と「ツライチ」の状態になればOKだ。



Tタイプのビスを用意し、写真で示した左フロントナックルのポストに設けられたビス穴へセットする。



クロスレンチを使い、Tタイプのビスをねじ込む。



左フロントナックルを動かし、軽く左右に回転することを確認する。



左フロントナックルを上下に動かし、ダンパーの伸縮とサスペンションの動作を確認しよう。



19
38号で提供したフロントアッパーアーム右を用意し、1と同じ要領で写真の位置にセットする。



20
フロントアッパーアーム右のビス穴と、シャシーフレームのビス穴の位置を合わせておく。



21
Zタイプのビスを用意し、写真のビス穴に差し込む。ビスはアッパーアーム前側とシャシーフレームのビス穴を貫通し、アッパーアーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



22
1番のプラスドライバーを使い、Zタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がアッパーアームの側面と“ツライチ”の状態になればOKだ。



23
38号で提供したフロントロワアーム右を用意し、5と同じ要領で写真の位置にセットする。



24
フロントロワアーム右のビス穴と、シャシーフレームのビス穴の位置を合わせておく。また、ダンパー下の取り付け部とロワアームのスリット部分の形状を合わせ、はめ込んでおく。



25
Zタイプのビスを用意し、写真のビス穴に差し込む。ビスはロワアーム前側とシャシーフレームのビス穴を貫通し、ロワアーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



26
1番のプラスドライバーを使い、Zタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がロワアームの側面と“ツライチ”の状態になればOKだ。



21号で組み立てた右フロントナックルを用意し、取り付けておいた「ハブナット」を取り外す。今号の作業ではもう使用しないので、紛失しないようしっかり保管しておこう。次に、写真のようにフロントロワーム右の先端に下側のポスト部を差し込む。このとき、ロワームが垂れ下がらないよう指で押さえておこう。



30と同じ要領で、ロワーム側面のビス穴とダンパー下部のビス穴を合わせ、Wタイプのビスを差し込む。ビスはロワーム前側とダンパー下部のビス穴を貫通し、ロワーム後ろ側のビス穴に突き当たる。



差し込んだ下側のポストが抜けやすいよう注意しながら、上のポストをフロントアッパーアーム右の先端の穴に差し込む。



1番のプラスドライバーを使い、Wタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がロワームの側面と“ツライチ”の状態になればOKだ。



右フロントナックルが、上下サスアームから外れないよう挟み込んだままシャーシフレームを裏返し、写真で示したビス穴にTタイプのビスをセットする。



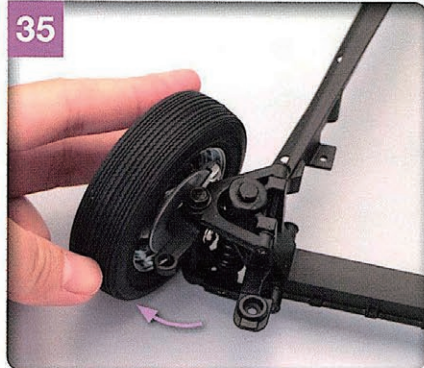
Tタイプのビスを用意し、写真で示した右フロントナックルのポストに設けられたビス穴へセットする。



クロスレンチを使い、Tタイプのビスをねじ込む。



クロスレンチを使い、Tタイプのビスをねじ込む。



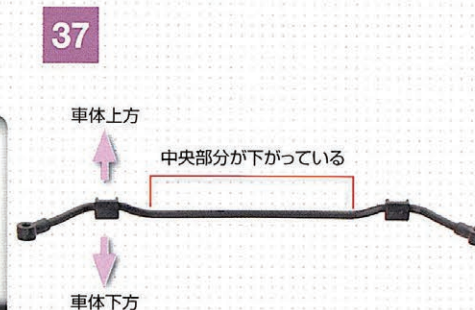
35

右フロントナックルを動かし、軽く左右に回転することを確認する。



36

右フロントナックルを上下に動かし、ダンパーの伸縮とサスペンションの動作を確認しよう。



37

42号で提供したフロントスタビライザーを用意し、平らな台の上に置いて形状を確認する。中央部分が垂れ下がっているが、これはエンジン下部との干渉を避けるため、取り付け時には下側(シャシーを裏返した場合は上)になることを覚えておこう。



38

33で動作確認したシャシーフレームを裏返し、写真で示したフロントロワーム左のビス穴に、41号で提供したHタイプのビスを差し込む。ビスはビス穴を貫通するので、突き出したビス先端にフロントスタビライザー先端のビス穴をセットする。このとき、スタビライザーは中央部分が上方向に上がった状態にする(シャシーが裏返しなので、取り付けられるパーツも裏返しで取り付け)。



39

スタビライザー先端が動かないよう指先で押さえ、1番のプラスドライバーを使ってHタイプのビスをねじ込む。スタビライザー先端がガタガタ動かない程度にねじ込めばOKだ。



40

Hタイプのビスをもう1本用意し、38、39と同じ要領でフロントロワーム右に取り付け、スタビライザー先端にねじ込む。



今号の完成

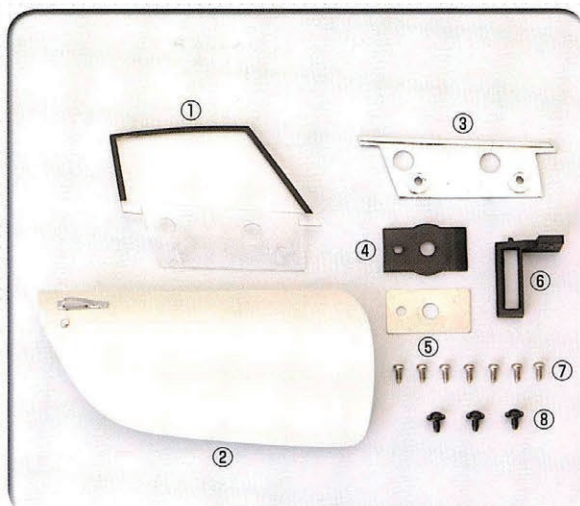
これで今回の作業は完了だ。前後のサスペンションがほぼ完成し、前後タイヤも取り付けられた。9、27で取り外したハブナットはそのまま保管し、最終段階で再度取り付ける。なお、今号で提供したシャシーパネルは、エンジン搭載後に取り付けるので、大切に保管しておこう。

44号

右ドアアウトサイドを 組み立てる

今号では、車体右側の「右ドアアウトサイド」を組み立てる。ドアは開閉可能な仕様になっており、内蔵したバネ材によって開閉状態を維持できるようになっている。なお、組み立て時にドア表面を傷つけないよう注意する必要があるため、事前にタオルなどを用意してから作業に取り掛かろう。

今号のパーツ



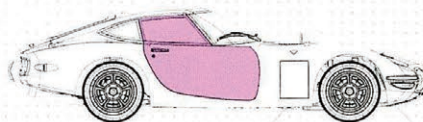
- ① 右ドアウィンドウ×1
- ② 右ドアアウトサイド×1
- ③ 右ドアトリム×1
- ④ ドアヒンジプレート×1
- ⑤ ドアヒンジバネ×1（※提供品は黒色）
- ⑥ ドアヒンジ×1
- ⑦ ビス（Cタイプ）×7（※1本は予備）
- ⑧ ビス（KKタイプ）×3（※1本は予備）

使用する道具

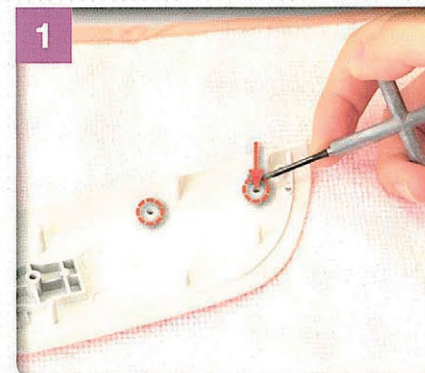
- ・プラスドライバー（1番）
- ・タップホルダー（34号で提供したもの）
- ・2.3mm中タップ（34号で提供したもの）

用意するもの

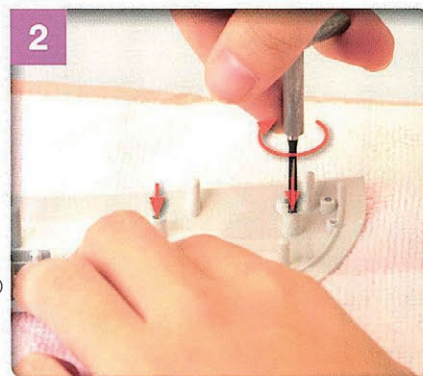
- ・タオル



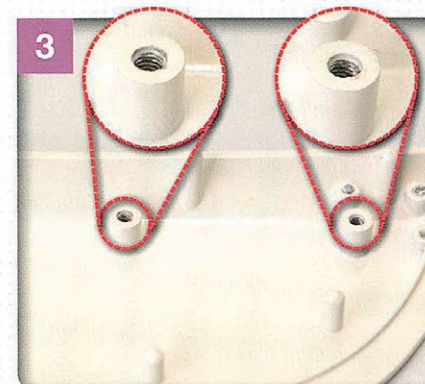
今号で
作業する箇所



あらかじめ、34号で提供したタップホルダーに2.3mm中タップをセットしておく。次に、平らな台の上に折り畳んだタオルを敷き、そこに②右ドアアウトサイドを写真のように置く。準備しておいた中タップを矢印のビス穴へ垂直にセットする。



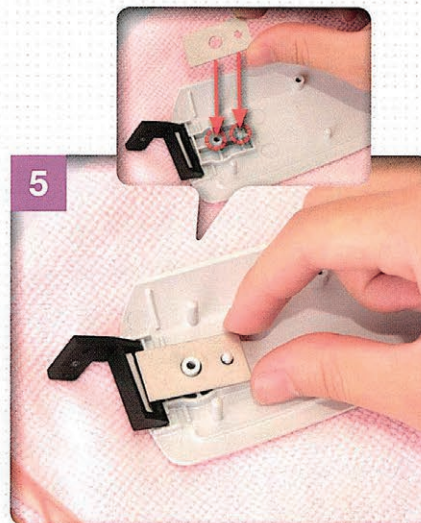
中タップを垂直にセットしたら、右方向に“1回転だけ”回してタップを立てる。もう片方のビス穴も同じ要領でタップを立てておく。なお、作業時にパーツを強く押し付けると、右ドアアウトサイド表面に取り付けられた小さな樹脂パーツを傷める恐れがあるので注意すること。



タップを立て終えたビス穴の状態。ビス穴の中に削りかすが残っている場合があるので、パーツを裏返しにして軽くたたいて落としておく。



④ドアヒンジを用意し、写真で示した位置にセットする。ドアヒンジは“はめ込まれる”のではなく、パーツの溝部分に“乗っかっている状態”になる。



⑤ドアヒンジバネを用意し、上の写真の向きで矢印の位置にセットする(なお、ドアヒンジバネに表裏の区別はない)。2カ所の穴に、右ドアアウトサイド内側に設けられた固定ポストとピンをはめ込む。



⑥ドアヒンジプレートを用意し、⑤のドアヒンジバネにかぶせるようにセットする。ドアヒンジプレートには表裏があるので、必ず写真の状態にセットすること。2カ所の穴に、右ドアアウトサイド内側に設けられた固定ポストとピンをはめ込む。



⑦ビス(KKタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。このビス穴にタップを立てなかったのは、ビスの太さが異なるためだ。
※事前にΦ2.6mmのタップを立てておくことを推奨します。(Φ2.6mmのタップは提供されていません)



1番のプラスドライバーを使い、KKタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビス穴にタップを立てていないので、できるだけゆっくりと、力を加えながらねじ込む。ビスのアタマ部分に取り付けられたワッシャーの裏側が、ドアヒンジプレート表面に触れたらねじ込むのをやめる。



この段階でパーツを手に取り、ドアヒンジを写真のようにドアに対して垂直になるよう回転させる。



⑨の状態のままドアヒンジプレートを指先でつまみ、上下に動かして状態を確認する。通常、ドアヒンジプレートが少しだけカタカタと動くはずだ。



その状態のまま、⑧でねじ込んだKKタイプのビスを再びゆっくりと締め込む。ドアヒンジプレートが動かなくなればOKだ。

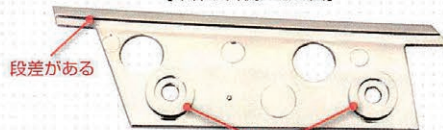
12

【車体の内側になる面】



ビス穴の周囲がくぼんでいる

【車体の外側になる面】

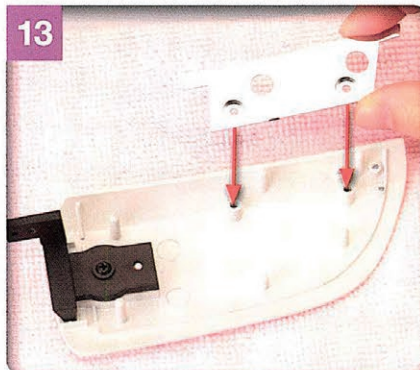


段差がある

ビス穴の周囲がリング状に出っ張っている

③ 右ドアトリムを用意し、形状を確認する。車体の内側になる面は平坦で、下部の穴の周囲がくぼんでいる。外側になる面は、上部に段差があり、下部のビス穴は“リング状の突起”に囲まれている。

13



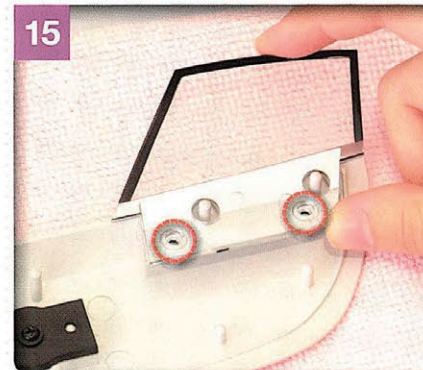
11まで組み立てたパーツを再びタオルの上に置き、右ドアトリムを写真で示した位置にセットする。右ドアトリムは“内側になる面”を上に向けること。

14



右ドアトリムの位置を調整し、下部のビス穴を囲む“リング状の突起”の内側に、1～3でタップを立てたポスト部先端をはめ込む。

15



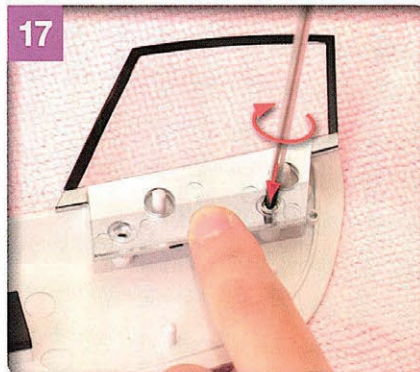
次に①右ドアウィンドウを用意し、12で取り付けられた右ドアトリムの上に写真の向きになるようかぶせるようにしてセットする。下部の穴は、右ドアトリム側のくぼみにはまるようになっている。

16



⑦ビス(Cタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする(左右どちらのビス穴からでもかまわない)。右ドアトリムおよび右ドアウィンドウが動かないよう、軽く押さえた状態で作業しよう。

17



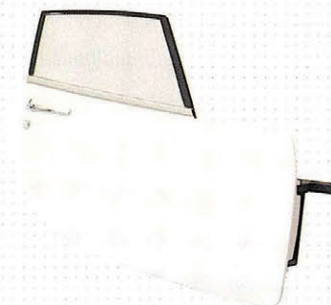
1番のプラスドライバーを使い、Cタイプのビスをねじ込む。あまり強くねじ込むとパーツを傷めてしまうので、この段階では軽くねじ込む程度にしておく。

18



もう片方のビス穴にもCタイプのビスをセットし、ドライバーで軽くねじ込む。その後、右ドアトリムおよび右ドアウィンドウが動かないまで、2本のビスを交互にゆっくと締め込む。

今号の完成



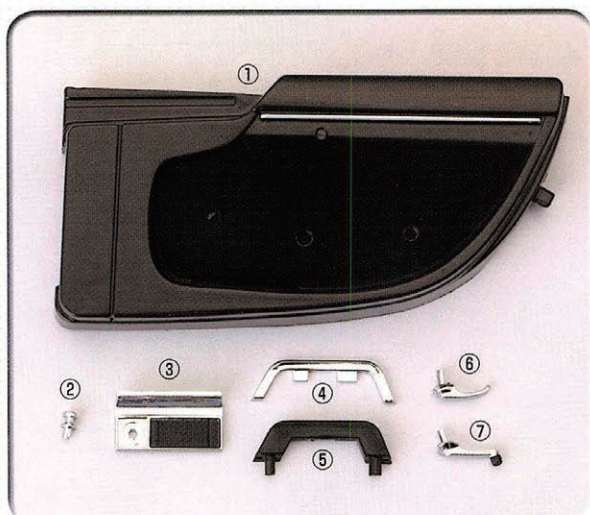
これで今回の作業は完了だ。作業時にタオルを敷いたのは、ドアの塗装面や小さなパーツ(ドアハンドルおよびキーシリンダー)を保護するためだ。また、透明なドアウィンドウも傷が付きやすいので、慎重な作業を心掛けよう。なお、余ったビス(Cタイプは5本、KKタイプは2本)は次回以降の作業で使用するので、紛失しないよう大切に保管しておこう。

45号

右ドアパネルを組み立てる

今号では、44号で組み立てた右ドアアウトサイドの内張となる「右ドアパネル」を取り付ける。すべてのパーツは取り付け用のピンを穴にはめ込むだけだが、取り付けピンおよび穴の形状が「Dカット(断面がD字状)」になっているので、しっかりと形状を確認してから作業に取り掛かろう。

今号のパーツ



- ①右ドアパネル×1
- ②シガーライター×1
- ③右ドア用灰皿×1
- ④右ドアパネルレストリム×1
- ⑤右ドアパネルレスト×1
- ⑥右ドアロックレバー×1
- ⑦右ドアウインドウハンドル×1

使用する道具

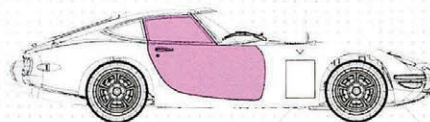
・ピンセット(2号で提供したもの)

用意するもの

・右ドアアウトサイド(44号で組み立てたもの)

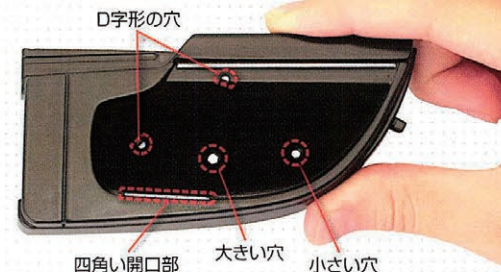
あると便利な道具

・多用途接着剤(セメダイン「スーパー X-G」を推奨)



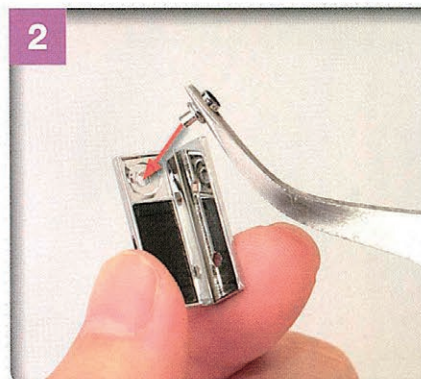
今号で
作業する箇所

1



①右ドアパネルを用意し、写真を参照しながら表面に設けられた取り付け穴の位置と大きさ、形状を確認しよう。

2

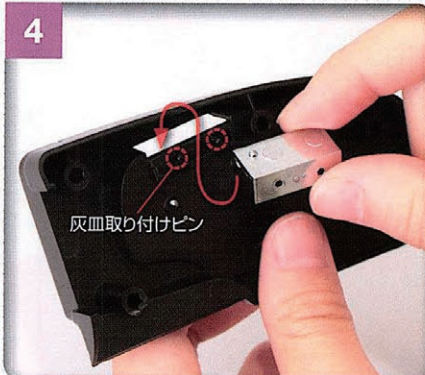


③右ドア用灰皿を用意し、写真で示した取り付け穴に②シガーライター先端の取り付けピンを差し込む。2号で提供したピンセットを使うと作業しやすいが、はじけ飛ばないように注意しよう。なお、シガーライターにはわずかに角度が設けられているので、好みで調整しよう。

3



指先でシガーライターを押し込む。シガーライターの軸部分は細くなっているため、折らないように注意しよう。また、シガーライターの上部は黒いデカールで処理されているので、傷めないよう注意しよう。



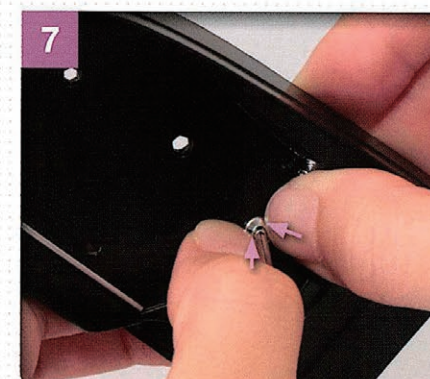
4
右ドアパネルを裏返し、上下を反対にして持つ。次に③まで組み立てた右ドア用灰皿を写真のように持ち、右ドアパネルの四角い開口部にセットする。右ドア用灰皿にはシガーライターを取り付けているので、それを先に開口部へ入れてから差し入れる。



5
右ドア用灰皿の取り付け穴と、右ドアパネルの取り付けピン(④の写真の赤丸参照)を合わせ、指先で押し込んで固定する。



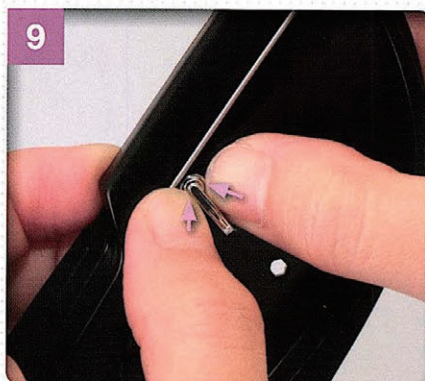
6
右ドアパネルを表側に向ける(写真は表側で、上下反対の状態)。⑦右ドアウィンドウハンドルを用意し、写真で示した右ドアパネル表面の取り付け穴にセットする。穴の形状と取り付けピンの形状(D字形)をしっかりと合わせよう。



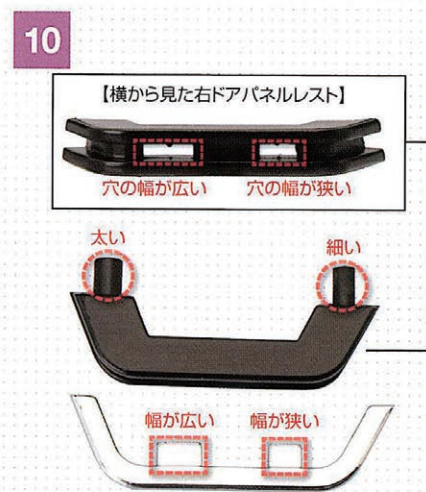
7
指先で右ドアウィンドウハンドルを真っすぐに押し込む。押し込み方は写真を参照し、取り付けピンを傷めないよう注意しよう。



8
⑥右ドアロックレバーを用意し、写真で示した右ドアパネル表面の取り付け穴にセットする。穴の形状と取り付けピンの形状(D字形)をしっかりと合わせよう。



9
指先で右ドアロックレバーを真っすぐに押し込む。押し込み方は写真を参照し、取り付けピンを傷めないよう注意しよう。



10
④右ドアパネルレストトリムと⑤右ドアパネルレストを用意し、それぞれの取り付けピンと穴の大きさを、写真を参照しながら確認する。



はめ込んだパーツが簡単に抜け落ちてしまう場合は、パーツ裏側に突き出した取り付けピン先端部分に、多用途接着剤を少量塗布して固定しよう。



11 右ドアパネルレスト側面のくぼみ部分に、右ドアパネルレストトリムをセットし、真っすぐに差し込む。



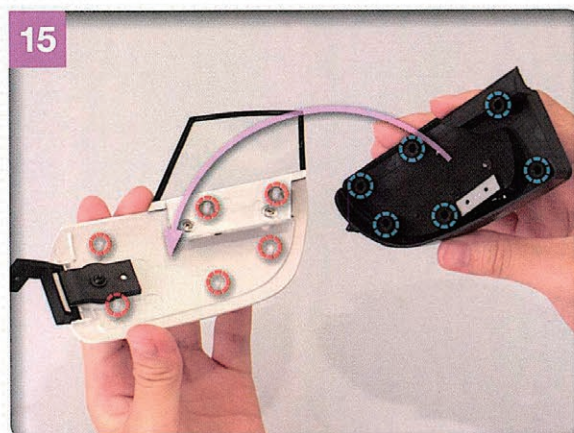
12 指先で右ドアパネルレストトリムを奥まで押し込み固定する。



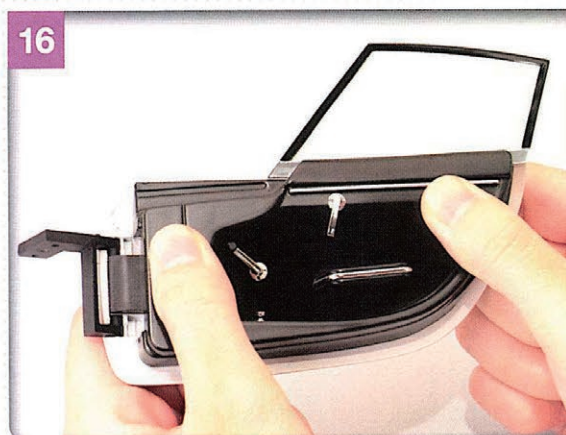
13 9まで組み立てた右ドアパネルを用意し、写真の取り付け穴に12まで組み立てた右ドアパネルレストをセットする。取り付けピンの太さと穴の大きさを合わせておくこと。



14 右ドアパネルレストを奥まで押し込み、ドアパネルに固定する。



15 44号で組み立てた右ドアアウトサイドを用意し、14まで組み立てた右ドアパネルをセットする。右ドアアウトサイド側に設けられた6本の取り付けピンを、右ドアパネル裏側の取り付け穴に合わせる。



16 右ドアパネルと右ドアアウトサイドを挟むようにして持ち、しっかりとめ込んで固定する。

今号の完成



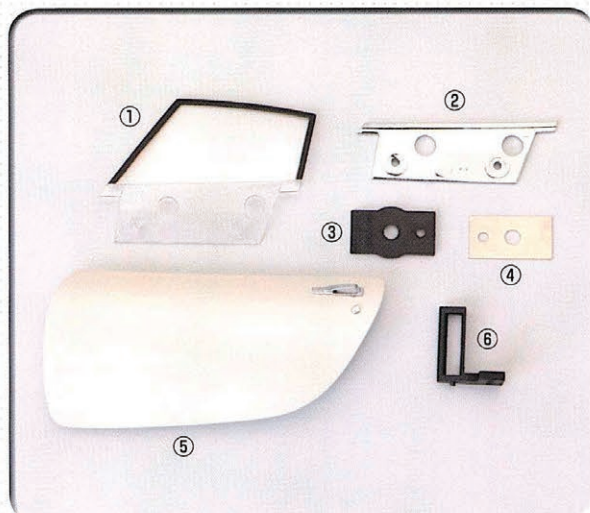
これで今回の作業は完了し、右ドアが完成した。このドア形状を見ただけでも、実車がいかに独創的なデザインだったか理解できるはずだ。組み立てたパーツは次回の作業に備え、傷などが付かないよう大切に保管しておこう。

46号

左ドアアウトサイドを 組み立てる

今号では、車体左側の「左ドアアウトサイド」を組み立てる。作業手順は44号で紹介した「右ドアアウトサイド」と同じなので、特に難しい部分はないはずだ。組み立て時にドア表面を傷つけないよう注意する必要があるため、事前にタオルなどを用意してから作業に取り掛かろう。

今号のパーツ



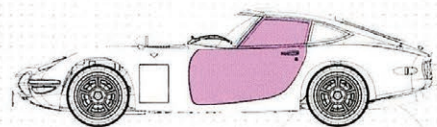
- ①左ドアウィンドウ×1
- ②左ドアアトリム×1
- ③ドアヒンジプレート×1
- ④ドアヒンジバネ×1（※提供品は黒色）
- ⑤左ドアアウトサイド×1
- ⑥ドアヒンジ×1

使用する道具

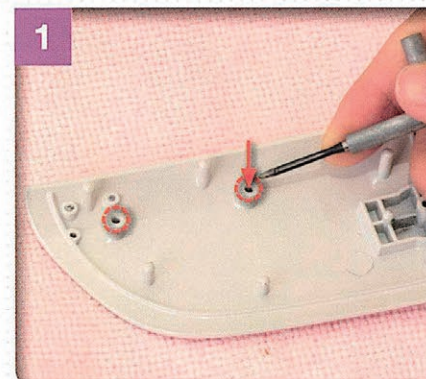
- ・プラスドライバー（1番）
- ・タップホルダー（34号で提供したもの）
- ・2.3mm中タップ（34号で提供したもの）

用意するもの

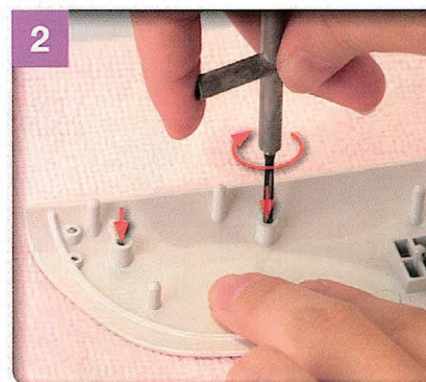
- ・タオル
- ・ビス（Cタイプ）×2（44号で提供し、残ったうちの2本）
- ・ビス（KKタイプ）×1（44号で提供し、残ったうちの1本）



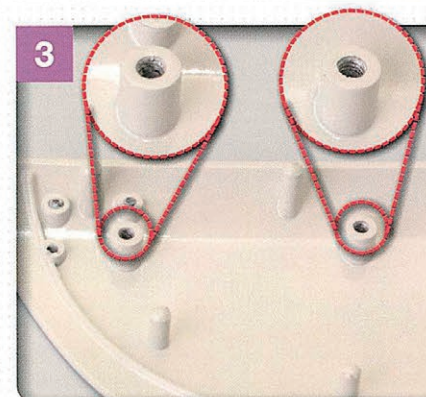
今号で
作業する箇所



あらかじめ、34号で提供したタップホルダーに2.3mm中タップをセットしておく。次に、平らな台の上に折り畳んだタオルを敷き、そこに⑤右ドアアウトサイドを写真のように置く。準備しておいた中タップを矢印のビス穴へ垂直にセットする。



中タップを垂直にセットしたら、右方向に「1回転だけ」回してタップを立てる。もう片方のビス穴も同じ要領でタップを立てておく。なお、作業時にパーツを強く押し付けると、左ドアアウトサイド表面に取り付けられた小さな樹脂パーツを傷める恐れがあるので注意すること。



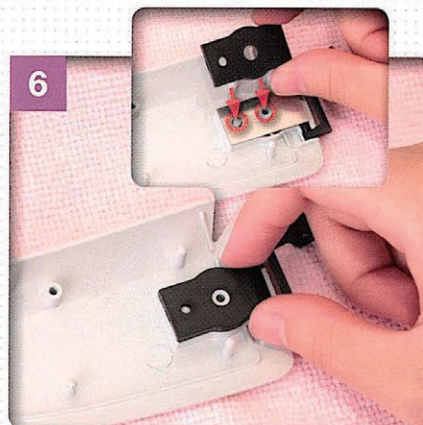
タップを立て終えたビス穴の状態。ビス穴の中に削りかすが残っている場合があるので、パーツを裏返しにして軽くたたいて落としておく。



④ドアヒンジを用意し、写真で示した位置にセットする。ドアヒンジは“はめ込まれる”のではなく、パーツの溝部分に“乗っかっている状態”になる。



④ドアヒンジバネを用意し、上の写真の向きで矢印の位置にセットする(なお、ドアヒンジバネに表裏の区別はない)。2カ所の穴に、左ドアアウトサイド内側に設けられた固定ポストとピンをはめ込む。



③ドアヒンジプレートを用意し、⑤のドアヒンジバネにかぶせるようにセットする。ドアヒンジプレートには表裏があるので、必ず写真の状態にセットすること。2カ所の穴に、左ドアアウトサイド内側に設けられた固定ポストとピンをはめ込む。

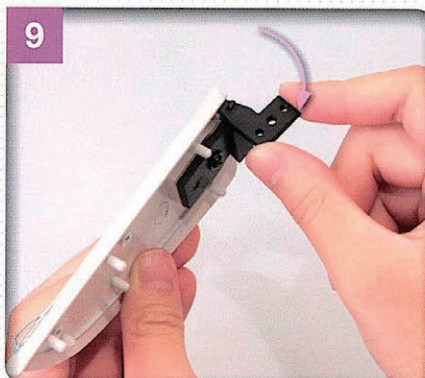


44号で提供したKKタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。このビス穴にタップを立てなかったのは、ビスの太さが異なるためだ。

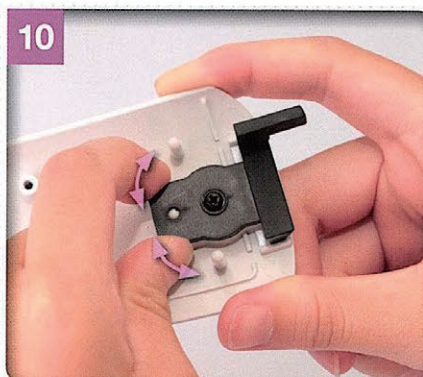
※事前にΦ2.6mmのタップを立てておくことを推奨します。(Φ2.6mmのタップは提供されていません)



1番のプラスドライバーを使い、KKタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビス穴にタップを立てていないので、できるだけゆっくりと、力を加えながらねじ込む。ビスのアタマ部分に取り付けられたワッシャーの裏側が、ドアヒンジプレート表面に触れたらねじ込むのをやめる。



この段階でパーツを手に取り、ドアヒンジを写真のようにドアに対して垂直になるよう回転させる。



⑨の状態のままドアヒンジプレートを指先でつまみ、上下に動かして状態を確認する。通常、ドアヒンジプレートが少しだけカタカタと動くはずだ。



その状態のまま、⑧でねじ込んだKKタイプのビスを再びゆっくりと締め込む。ドアヒンジプレートが動かなくなればOKだ。

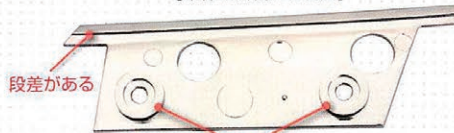
12

【車体の内側になる面】



ビス穴の周囲がくぼんでいる

【車体の外側になる面】

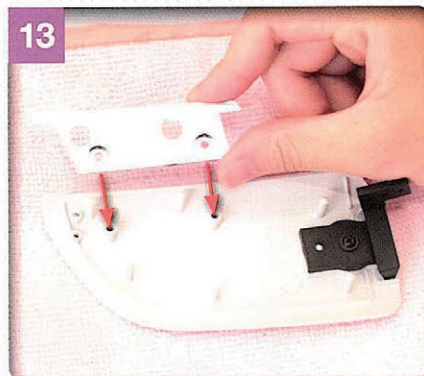


段差がある

ビス穴の周囲がリング状に出っ張っている

②左ドアトリムを用意し、形状を確認する。車体の内側になる面は平坦で、下部の穴の周囲がくぼんでいる。外側になる面は、上部に段差があり、下部のビス穴は“リング状の突起”に囲まれている。

13



⑪まで組み立てたパーツを再びタオルの上に置き、左ドアトリムを写真で示した位置にセットする。左ドアトリムは“内側になる面”を上に向けること。

14



左ドアトリムの位置を調整し、下部のビス穴を囲む“リング状の突起”の内側に、①～③でタップを立てたポスト部先端をはめ込む。

15



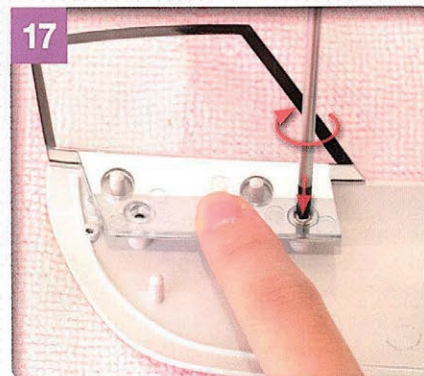
次に①左ドアウィンドウを用意し、⑭で取り付けた左ドアトリムの上に写真の向きになるようかぶせるようにしてセットする。下部の穴は、左ドアトリム側のくぼみにはまるようになっている。

16



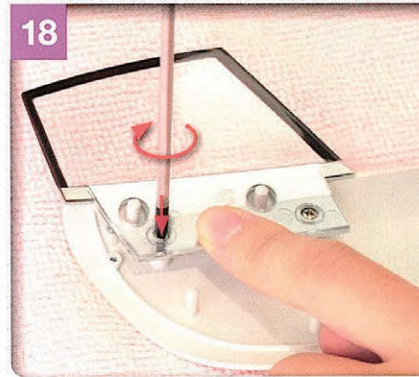
44号で提供したCタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする(左右どちらのビス穴からでもかまわない)。左ドアトリムおよび左ドアウィンドウが動かないよう、軽く押さえた状態で作業しよう。

17



1番のプラスドライバーを使い、Cタイプのビスをねじ込む。あまり強くねじ込むとパーツを傷めてしまうので、この段階では軽くねじ込む程度にしておく。

18



もう片方のビス穴にもCタイプのビスをセットし、ドライバーで軽くねじ込む。その後、左ドアトリムおよび左ドアウィンドウが動かなくなるまで、2本のビスを交互にゆっくりと締め込む。

今号の完成



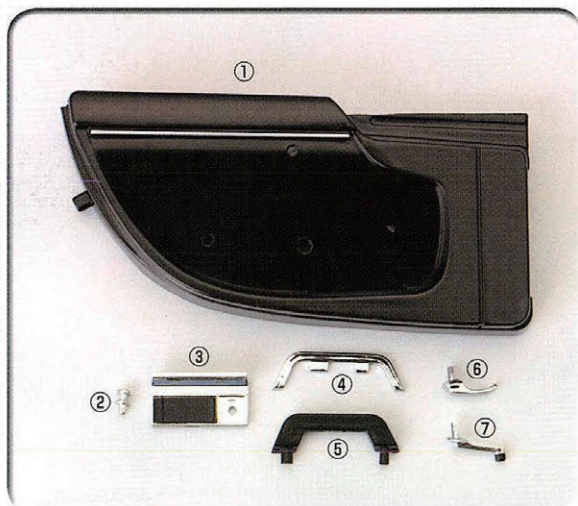
これで今回の作業は完了だ。車体左側のドアも外側部分が組み上がり、次号で内張を取り付ければ、左右ドアの完成だ。今後、一体成型されたボディが提供されてから、ボディへの取り付け作業を行うことになるので、それまでパーツに傷が付かないよう大切に保管しておこう。

47号

左ドアパネルを組み立てる

今号では、46号で組み立てた左ドアアウトサイドの内張となる「左ドアパネル」を取り付ける。組み立て手順は45号と同様で、「Dカット」形状になっている取り付けピンおよび取り付け穴を確認してから作業に取り掛かろう。また、簡単に抜け落ちてしまう場合は、多用途接着剤を使って固定しておこう。

今号のパーツ



- ①左ドアパネル×1
- ②シガーライター×1
- ③左ドア用灰皿×1
- ④左ドアパネルレストリム×1
- ⑤左ドアパネルレスト×1
- ⑥左ドアロックレバー×1
- ⑦左ドアウィンドウハンドル×1

使用する道具

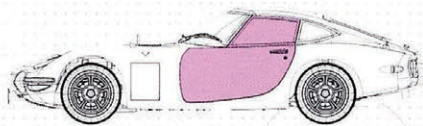
・ピンセット(2号で提供したもの)

用意するもの

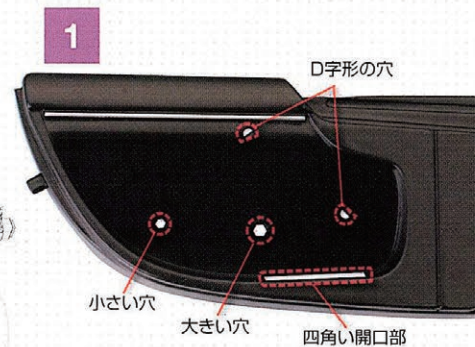
・左ドアアウトサイド(46号で組み立てたもの)

あると便利な道具

・多用途接着剤(セメタイン「スーパー X-G」を推奨)



今号で
作業する箇所



①左ドアパネルを用意し、写真を参照しながら表面に設けられた取り付け穴の位置と大きさ、形状を確認しよう。



③左ドア用灰皿を用意し、写真で示した取り付け穴に②シガーライター先端の取り付けピンを差し込む。2号で提供したピンセットを使うと作業しやすいが、はじけ飛ばないように注意しよう。なお、シガーライターにはわずかに角度が設けられているので、好みで調整しよう。



指先でシガーライターを押し込む。シガーライターの軸部分は細くなっているなので、折らないように注意しよう。また、シガーライターの上部は黒いデカールで処理されているので、傷めないよう注意しよう。



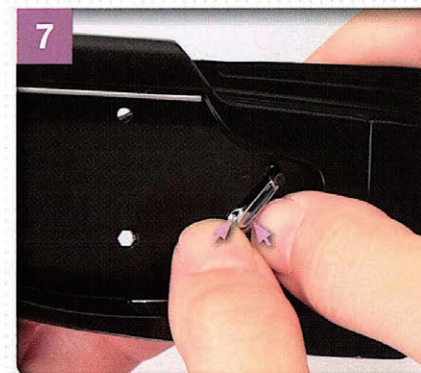
4
左ドアパネルを裏返し、上下を反対にして持つ。次に④まで組み立てた左ドア用灰皿を写真のように持ち、左ドアパネルの四角い開口部にセットする。左ドア用灰皿にはシガーライターを取り付けているので、それを先に開口部へ入れてから差し入れる。



5
左ドア用灰皿の取り付け穴と、左ドアパネルの取り付けピン(④の写真の赤丸参照)を合わせ、指先で押し込んで固定する。



6
左ドアパネルを表側に向ける。⑦左ドアウインドウハンドルを用意し、写真で示した左ドアパネル表面の取り付け穴にセットする。穴の形状と取り付けピンの形状(D字形)をしっかりと合わせよう。



7
指先で左ドアウインドウハンドルを真っすぐに押し込む。押し込み方は写真を参照し、取り付けピンを傷めないよう注意しよう。



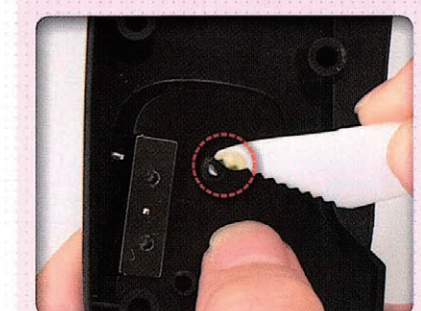
8
⑥左ドアロックレバーを用意し、写真で示した左ドアパネル表面の取り付け穴にセットする。穴の形状と取り付けピンの形状(D字形)をしっかりと合わせよう。



9
指先で左ドアロックレバーを真っすぐに押し込む。押し込み方は写真を参照し、取り付けピンを傷めないよう注意しよう。

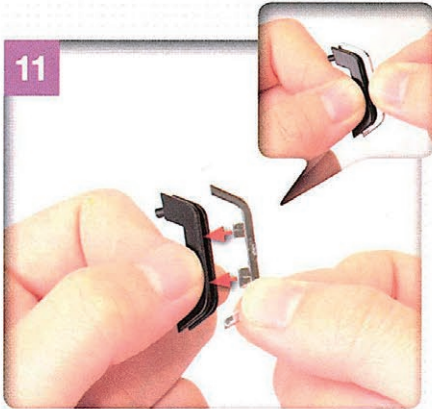


10
④左ドアパネルレストトリムと⑤左ドアパネルレストを用意し、それぞれの取り付けピンと穴の大きさを、写真を参照しながら確認する。



はめ込んだパーツが簡単に抜け落ちてしまう場合は、パーツ裏側に突き出した取り付けピン先端部分に、多用途接着剤を少量塗布して固定しよう。

11



左ドアパネルレスト側面のくぼみ部分に、左ドアパネルレストトリムをセットし、真っすぐ差し込む。

12



指先で左ドアパネルレストトリムを奥まで押し込み固定する。

13



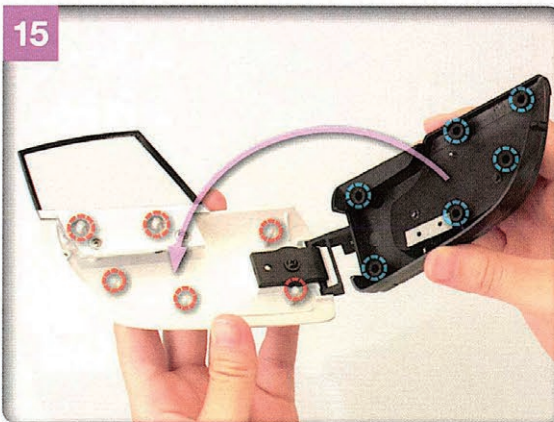
9まで組み立てた左ドアパネルを用意し、写真の取り付け穴に12まで組み立てた左ドアパネルレストをセットする。取り付けピンの太さと穴の大きさを合わせておくこと。

14



左ドアパネルレストを奥まで押し込み、ドアパネルに固定する。

15



46号で組み立てた左ドアアウトサイドを用意し、14まで組み立てた左ドアパネルをセットする。左ドアアウトサイド側に設けられた6本の取り付けピンを、左ドアパネル裏側の取り付け穴に合わせる。

16



左ドアパネルと左ドアアウトサイドを挟むようにして持ち、しっかりとめ込んで固定する。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。45号で右ドアも完成しているのだから、これで左右のドアが組み上がったことになる。組み立てたパーツは一体成型ボディが提供されてから取り付けることになるので、傷などが付かないよう大切に保管しておこう。

ビスの種類の見分け方

本モデルでは、組み立てにさまざまな種類のビスを使用する。提供したビスには、「Aタイプ」「Bタイプ」といった名称が付いているが、あくまでも「組み立てガイド」の作業を円滑に進めるための、便宜上のものだ。また、保管していたビスが交ざってしまった場合などは、判別が難しくなることもあるだろう。そこで、本来のビスのサイズ表記に合わせた一覧表を紹介しよう。万一のトラブル時に活用してもらいたい。



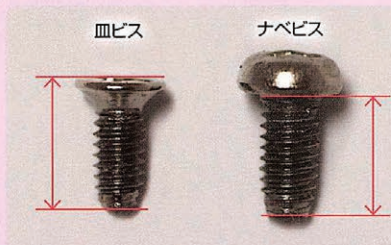
ビスの種類には、アタマ部分が平らな「皿ビス」と、アタマ部分が丸い「ナベビス」がある。



アタマ部分の形状が同じでも、ネジ部分の“溝の細かさ”が異なれば別の種類となる。タッピングビスは、タップを切りながらねじ込むタイプで、主に樹脂パーツに使用。マシンビス(単に「ビス」と省略するのが一般的)は、“あらかじめタップを立てたビス穴”に使用するもので、金属パーツに使用する。

ビスの計測方法

ビスは、直径と長さ、アタマの形状、ネジの溝部分の細かさ(ピッチ)で見分ける。皿ビスとナベビスでは“ネジ部の長さの計測方法”が異なるので注意しよう。



皿ビスは、アタマ部分の上部から軸部分の先端まで、つまり“ビス全体の長さ”で計測する。それに対しナベビスは、“軸部分のみ長さ”で計測する。

提供ビス一覧表

名称	サイズ (直径×長さ/単位=mm)	種別	色	提供号数 (※47号まで)
A	2.3×3	ナベビス	シルバー	2
B	2.0×4	皿タッピングビス	シルバー	4
C	2.3×5	ナベビス	シルバー	2,44
D	2.3×5	皿ビス	シルバー	3,35
E	2.3×4	タッピングビス	シルバー	3,33
F	2.6×5	タッピングビス	シルバー	17
G	2.3×5	皿タッピングビス	シルバー	17
H	2.3×5	タッピングビス	黒	22,30,41
I	2.3×5	タッピングビス	シルバー	22
J	2.6×6	タッピングビス	黒	30
K	2.0×5	皿タッピングビス	シルバー	17
L	2.0×5	ナベビス	シルバー	35
M	2.0×5	皿ビス	シルバー	35
N	2.0×5	皿ビス	黒	43
O	2.3×5	皿ビス	黒	36
P	2.3×5	ナベビス	黒	36
Q	2.3×5	ワッシャー付きタッピングビス*	黒	36
R	2.3×4	ナベビス	黒	41
S	1.7×7	ナベビス	黒	41
T	3.0×5	ワッシャー付き六角ヘッドビス	黒	42
U	3.0×5	六角ヘッドタッピングビス	黒	40
V	2.0×26.5	皿ビス	黒	40
W	2.0×13.5	皿ビス	黒	40
X	2.0×8	皿ビス	黒	40
Y	2.0×19	皿ビス	黒	42
Z	2.0×28.5	皿ビス	黒	42
AA	2.0×4	ワッシャー付きナベビス	黒	42
BB	2.3×5	ワッシャー付きタッピングビス*	黒	後の号で提供
CC	2.3×6.5	皿タッピングビス	黒	43
DD	2.6×5	ナベビス	黒	後の号で提供
EE	2.6×7	ナベビス	黒	後の号で提供
FF	2.0×4	タッピングビス	シルバー	後の号で提供
GG	2.0×4	ナベビス	シルバー	後の号で提供
HH	1.7×4	タッピングビス	シルバー	後の号で提供
II	2.3×4	ワッシャー付きタッピングビス	黒	後の号で提供
JJ	2.0×3.5	皿ビス	シルバー	後の号で提供
KK	2.6×5	ワッシャー付きナベビス	黒	44
LL	2.3×4	皿ビス	黒	後の号で提供
MM	2.6×5	ナベビス	シルバー	後の号で提供

※QとBBとはワッシャーの直径が異なる